

静岡新聞 2024 年 1 月 5 日 付

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

今年はどのような年になるのだろうか。毎年そう考えるのだが、なかなか予想通りにはならない。経済には流れがあるのでそれなりに変化の方向は見えるのだが、政治が予想外の変化をもたらす。それによって経済にも想定外の大きな影響が及ぶ。

日本経済は全般的に好ましい方向に動いていると言っているだろうか。ゼロ金利で物価も賃金も全く動かなかったデフレ状態が20年以上続いた。それが、今、大きく変わろうとしている。物価や賃金が穏やかなペースで上がることは基本的には好ましい動きである。金利も激しい上昇にならない限り、経済を刺激するはずだ。新陳代謝にもプラスに働くはずだ。

昨年、日本経済はデフレ脱却の流れに乗っている。昨年未まで好調に上がり続け

## 論壇

# 世界の政治経済と日本経済

た株価も、そうした経済の流れを受けたものだ。今の段階では、令和6年もこうした流れが続くことが期待される。当面の注目点は3月に結果が出る春闘で賃上げの傾向が続くかどうか、そうした流れを受けて日本銀行がマイナス金利の撤廃に踏み切るのかという点だ。

ただ、日本経済で続いているこのような好ましい流れも、海外から大きなマイナスの影響を受けるかもしれない。今年には海外で大きな選挙が続く。1月には台湾の総統選挙が、3月にはロシアの大統領選挙が、そして11月には米国で大統領選挙が予定されている。台湾の選挙結果は中台関係や米中関係に大きな影響を及ぼすだろう。ロシアの選挙結果はプーチン大統領の続投となるだろうが、それによってウクライナ情勢の長期化が懸念される。

そして最も大きな不安定要素は米国の大統領選挙である。トランプ氏の返り咲きの可能性が指摘されているが、その場合には米国の政策が大きく変わることは間違いない。今の時点でトランプ大統領の当選の可能性を論じても仕方ないし、ましてや返り咲いた場合の米国の政策がどう変わるのか予想することも難

しい。ただ、米国の大統領選挙が世界の政治経済の大きな不確実性要因であることは間違いない。

以上のような不確実性の中で、日本での脱デフレの流れである。低迷する中国経済も含めて世界の政治経済が不安定化し低迷する中で、日本経済の脱デフレの流れがそれを跳ね返せるのかどうか問われている。

ただ、政治という意味では、日本でも深刻な動きが広がっている。昨年後半から問題になっている政治資金の流れは、政権の不安定化に繋がる。健全な政策運営を続けていくためには、政権の安定が必要となるが、足元で続いている政治的な混乱は安定とは真逆の方向の動きである。

経済が強い時には政治は不安定化し、政治が安定しているも経済が低迷する。こうした政治と経済の行き違いはいつの時代でも見られることであるが、令和6年は政治の混乱の中で経済がどこまで耐えるのか問われる年となりそうである。ただ、年初から悲観的になる必要はない。台湾の選挙も米国の選挙も、世界にとって好ましい結果になることだってあるかもしれないからだ。